



令和5年度卒業式式辞

ただいま、卒業証書を授与され、本校を巣立ちゆく、七十六回生の皆さん、卒業おめでとうございます。

今日、ここに皆さんの晴れの日を感染症などの制限がない状態で迎えることができたことを大変嬉しく思います。

皆さんは、令和三年四月にこの二見中学校に入学しました。中学校生活への期待を、胸に抱いた入学式はマスク着用や入場制限など、まだまだ行動や生活に制限のある状態での開催でした。二年時にはようやくマスク着用等の条件が緩和されるなど、少しずつではありますが、学校でも当たり前のことができるようになっていきました。今年度の五月八日にコロナウィルス感染症が五類に位置づけられ、様々な制限がとり払われたあとの授業や行事では、コロナ禍以前のとおりではなく、新しい二見中学校の進む道を切り拓いてくれました。この三年間は皆さんの人生において、かけがえのない時間だったのではないのでしょうか。

さて、社会に目を向けてみると、ロシアとウクライナの戦争、ガザ地区の紛争が続いています。元日には能登半島地震が起きました。先日、日経平均株価がバブルの時代を超え、最高値を記録しました。本当に何が起るかわからない時代です。その予測が困難な「VUCA」と言われる時代を生きていく皆さんに伝えたいことがあります。

ここまで、二見という地で共に歩んできた皆さんは、これから先、それぞれの道を進んでいくこととなります。道を進んでいく途中のどこかには、進むことを邪魔するものがあります。それを乗り越えて進むのか、迂回するのか、引き返すのか決めなければなりません。どうしても進みたい道ならば、挑戦し続けてください。また、道が分かれていることもあります。選択肢は二つ以上あるかもしれません。皆さんそれぞれが経験してきたことを踏まえ、思い切り悩んで決めてください。そして進んだ先の結果を受け入れてください。その結果は、うまくいったと思うものかも知れませんが、うまくいかなかったと感じて落ち込むことになるものかもしれません。それはあくまで、その時の結果だということです。そして、その結果が出た時が、次の出発点です。皆さんは、その選択を繰り返し、それぞ

れの人生を生きていくのです。過去は取り戻せませんが、未来は自分次第でどうにでもすることができます。ケ セラ セラです。前を向いて、その時その時に、最善を尽くしてください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。保護者の皆様に支えられ、本日、卒業の日が迎えられました。今日の佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。振り返れば、長いようで、短い義務教育の九年間だったことと思います。特に中学校の三年間は、思春期を迎え、心身ともに不安定な時期である上に、コロナ禍による、先行きの不透明さも重なり、ご苦勞の多い三年間だったとご推察申し上げます。また、三年間、本校の教育にご理解、ご協力を賜りましたことに、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後とも、地域の良き理解者として、本校の教育にご支援くださりますよう、お願いを申し上げます。

卒業生の皆さん、明日から、この二見中学校が皆さんの母校です。同時に、二万一千人を超える二見中学校の、同窓会の会員です。二見中学校の卒業生は、様々な分野で活躍しています。今後、その母校のつながりが、皆さんを助けてくれることもあるはずです。これからも、「I♥FUTAMI宣言」運動で培った自律の精神を活かし、学び続けて下さい。そして、次代の担い手になってくれることを願い、私たちは応援しています。

結びに、卒業生の皆さんの輝かしい未来と、保護者の皆様のご健勝を、心から祈念し、式辞といたします。

令和六年三月一五日
明石市立二見中学校長

